

介護福祉学科
1年

授 業 科 目	人 間 の 理 解 I			担 当 者	藤 原 久 礼		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。

到達目標

- ・①人間の尊厳と自立、②介護における尊厳の保持・自立支援を理解できる。また、社会福祉分野固有の人間の捉え方や支援の考え方を理解することができる。さらに、介護福祉士として利用者支援を行う際の基盤となる社会福祉概念を理解し、今後の介護福祉支援に活かすことができる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 人間の尊厳の保持への支援（概要）
3. 生命の尊厳、神聖性（SOL）
4. 人間の尊厳
5. 倫理原則と徳の倫理
6. 基本的人権と人権の尊重
7. 人間の尊厳と「自律」・「自立」
8. 生活の質（QOL）
9. パーソンセンタードケア
10. 人間の変化の可能性の尊重
11. エンパワメントとストレングス
12. ソーシャル・インクルージョン
13. 権利擁護・アドボカシー
14. 国際生活機能分類（ICF）、自立支援に向けて
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・自分の暮らしと、人権のかかわりや生活の質について考える。
- ・当たり前の生活とは何かについて、自分の生活の中で意識し考える。
- ・生命の尊厳、人間の尊厳、人間の成長・発達について意識をしながら日々の人間関係を築いていくよう努力をする。

評価の方法・基準

- ・授業への参加態度(10%)、レポート等提出物(20%)、試験(70%)などによる総合評価

教科書

- ・授業で適宜プリントを配布する

備考

福祉現場で相談援助職に従事した経験を持つ教職員が、福祉の人の見方から人間の理解を解説する。

授 業 科 目	社会の理解 I			担 当 者	藤原 久礼		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりについて理解する。日本の社会保障の目的、基本的な考え方、しくみ、制度の概要について理解する。社会保険の目的、基本的な考え方、仕組み、制度について理解する。

到達目標

- ・ 私たちの生活と福祉との関係性が理解。
- ・ 戦後の家族形態・地域の移り変わりの原因や機能変化について理解し、社会福祉の必要性について理解。
- ・ 社会保障の概要・目的、社会扶助、社会保険、について理解。

授業計画

【前期】

1. 社会福祉の生活を見る視点 ①
2. " ② (国際生活分類を中心に)
3. 家族・世帯・親族 ①
4. " ②
5. 戦後日本の家族規模の変化と機能変化
6. 戦後日本の地域社会の変化と機能変化 ①
7. " ②
8. 戦後日本におけるライフスタイルの変化 ①
9. " ②
10. 社会保障の基本的な考え方
11. 社会保障の体系と社会保険 ①
12. " ②
13. " ③
14. " ④
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・ 現象として現れる生活問題の背景を理解するよう、社会科学視点を養い、根拠をもって思考する力を身に付けるよう努める。
- ・ 専門的な語句と意味について復習し理解を図る。

評価の方法・基準

- ・ 授業の取り組み(15%)、期末テスト(85%)による総合評価

教科書

- ・ 『介護福祉士実務者研修テキスト①』(中央法規出版)

備考

福祉現場で相談援助職に従事した経験を持つ教職員が、現代家族・地域社会の課題を概説し、社会保障について解説する。

授 業 科 目	社会の理解Ⅱ			担 当 者	藤原 久礼		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

- 社会保障（社会扶助）の基本的な考え方、しくみ、制度について理解する。
 介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。
 介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。

到達目標

- ・ 公的扶助の目的・原理・原則について理解できる。
- ・ 生活保護制度の概要について理解できる。
- ・ 社会手当について理解できる。
- ・ 介護保制度や障害者自立支援制度などの福祉法制度について理解できる。

授業計画

【後期】

1. 公的扶助 ①（公的扶助とは、生活保護の原理・原則）
2. " ②（生活保護の扶助の種類、生活保護施設）
3. " ③（生活保護の現状）
4. 社会手当
5. 財政と社会福祉
6. 社会福祉法人
7. 成年後見制度
8. 個人情報保護
9. 介護保険制度 ①
10. " ②
11. " ③
12. " ④
13. 障害者自立支援制度 ①
14. " ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・ 覚える内容が多いため、専門用語とその内容について必ず復習し理解する。
- ・ 法制度の大枠を理解し、それぞれの細かな制度や枠組みがイメージでき説明できるように努める。

評価の方法・基準

- ・ 授業への取り組み(15%)、期末テスト(85%)による総合評価

教科書

- ・ 『介護福祉士実務者研修テキスト①』（中央法規出版）

備考

介護現場で相談援助職に従事した経験を持つ教職員が、福祉制度について解説する。

授 業 科 目	家 政 学 I			担 当 者	齋 木 亜 子		実務経験
履 修 方 法	実 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	6 0

授業の目的・内容

生活支援技術Ⅱ-①での知識をふまえ、調理実習を通して高齢者や障害者の食の支援の技術を身に付ける。

到達目標

- ・衛生管理を徹底し、食中毒を予防できる。
- ・高齢者や障害者の咀嚼・嚥下機能にあわせた食事の形態を考え、展開することができる。
- ・栄養のバランスを考えた料理の選択ができる。

授業計画

【後期】

- 1・2. おかゆとおもゆ、市販の介護食について
- 3・4. 展開方法を考える：家族と同じ食事からの展開
- 5・6. 季節を感じる献立（秋の献立）：きざみ食、ミキサー食への展開
- 7・8. カルシウムを補う献立（骨粗鬆症予防）：スキムミルクの利用
- 9・10. 洋風献立①：ミキサー食、ゼリー食への展開
- 11・12. 和風献立①：片栗粉とトロミ調整剤の違い、寒天とゼラチンの違い
- 13・14. 洋風献立②：ソフト食、裏ごしの方法
- 15・16. 手づくりのパン：安心安全なパンをみんなで楽しく作る
- 17・18. バイキング料理：栄養のバランスを考えた料理の選択
- 19・20. 鶏肉のからあげ：班ごとに考えた展開
- 21・22. 行事食①（クリスマス）：介護食への展開と食卓の環境整備
- 23・24. 行事食②（おせち料理）：介護食への展開と食文化の伝承
- 25・26. 鉄とカルシウムを補う献立：ひじきの利用
- 27・28. 和風献立②：白玉粉と上新粉
- 29・30. 行事食③（節分）：ソフト食、蒸し物の特徴

事前・事後学習の内容

- ・実習後に毎回まとめ（レポート）を作成する。
- ・実習した料理を家でつくってみる。
- ・介護食への展開を班内で話し合う。

評価の方法・基準

- ・レポート（60%）、調理技術（30%）、掃除片づけ（10%）

教科書

- ・プリント配布

備考

授業科目	統計・情報処理			担当者	椿 幸治		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	介護1年	時間数	30

授業の目的・内容

現代社会で必要となるパソコン技術においてMS-Excel を用いて表計算ソフトの基本操作を学習し、さまざまなデータの分析や視覚効果の高い表・グラフを作成できるようにする。

また、MS-PowerPoint を用いてプレゼンテーションソフトの基本的な操作を学習し、発表に必要な知識・技術を身に付ける。

到達目標

- ・表計算ソフトで用いる数式を理解し、身につける。
- ・情報処理技能検定（表計算）3級以上の資格を取得する。
- ・プレゼンテーションソフトを用いて発表資料を作成する。

【後期】

1. 表計算ソフトの基本操作、関数の利用①
2. 関数の利用②
3. 情報処理技能検定（表計算）3級問題対策①
4. " 3級問題対策②
5. " 2級問題対策
6. 検定試験対策①
7. " ②
8. " ③
9. " ④
10. " ⑤
11. " ⑥
12. 検定試験（実技試験）
13. プレゼンテーションソフトの基本的操作
14. PowerPoint を用いた課題作成①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・表計算ソフトに用いられる関数を事前に学習する。
- ・授業で配布されるプリントを完成する。
- ・PowerPoint の課題作成を行う。

評価の方法・基準

- ・実技試験(70%)、PowerPoint による課題(20%)、提出物及び授業態度(10%)により評価する。

教科書

- ・『学生のための Office2016&情報モラル』（noa 出版）

備考

12月中旬に情報処理技能検定（表計算）試験を行う。

授 業 科 目	生活支援技術Ⅱ-①			担 当 者	齋木 亜子		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

食文化や食生活をはじめ、介護福祉士として自立に向けた生活支援（食の支援）をするうえで必要な知識を習得する。

到達目標

- ・栄養に関する基本的な知識を自分の食生活の見直しに活用できる。
- ・食中毒予防を実践できる。
- ・高齢者や障害者の咀嚼・嚥下機能にあわせた食事の形態を考えることができる。

授業計画

【前期】

1. 現代の食生活・食文化
2. 栄養素の種類と働き①
3. " ②
4. 献立の立て方
5. 食品衛生：食中毒予防
6. 調理操作、おいしさについて
7. 食品の調理性①：植物性食品
8. " ②：動物性食品
9. " ③：でんぷん、寒天、ゼラチン
10. 高齢者と障害者の栄養①
11. " ②
12. " ③
13. 疾患と食事①：生活習慣病予防
14. " ②：糖尿病食事療法のための食品交換表について
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・事前に授業範囲の教科書を読んでおく。
- ・授業の始めに前回の復習小テストを実施するため、配布資料をもとに復習すること。

評価の方法・基準

- ・小テスト（10%）、筆記試験（90%）

教科書

- ・『生活支援技術Ⅰ』（中央法規出版）

備考

授 業 科 目	介 護 過 程 I			担 当 者	寺 藤 美 喜 子		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	6 0

授業の目的・内容

介護過程の仕組み・目的を理解し、基本的な展開方法を習得する。

尊厳の保持や自立支援の視点から個別のニーズに対応できる展開の方法を理解し、実践的な展開を行なうための基礎知識を身につける。

到達目標

- ・介護過程の意義と目的が理解できる。
- ・基本的な展開方法を理解できる。
- ・個々の利用者を知り、根拠に基づいた生活課題を導き出すことができる。

授業計画

【前期】

1. 暮らしを考える
2. 生活支援とは
3. 介護過程とは
4. // の全体像
5. // の目的
6. // の展開
7. アセスメントとは
8. アセスメントの方法
9. 情報収集の必要性
10. // の方法、留意点
11. 情報の理解
12. 様々な情報との関連づけ①
13. // ②
14. // ③
15. 課題の明確化

【後期】

16. 目標の設定
17. 必要な支援とは
18. 計画の立案方法
19. 実習で出会ったAさん①
20. // ②
21. // ③
22. カンファレンス①
23. // ②
24. 実施時の留意点、実施状況の把握
25. 記録の書き方①
26. // ②
27. 評価とは、評価の留意点
28. 計画の修正
29. 再アセスメント
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・筆記試験（60%）、演習課題の提出状況・グループでの取り組み評価（40%）

教科書

- ・『介護過程』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配付する

備考

介護施設で介護職・介護支援専門員に従事した経験を持つ教員が、介護過程の仕組み目的等、基本的な展開方法を解説する。

授業科目	介護過程Ⅱ-①			担当者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	後期	学科・学年	介護1年	時 間 数	30

授業の目的・内容

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開するうえで、最も重要となる情報収集が適切に行える能力を養う。

到達目標

- ・利用者の生活状況を把握する視点を持つことができる。
- ・把握した情報を適切に言語化できる。

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション
2. 介護過程の意義、目的
3. 情報収集の目的、アセスメントの実際
4. 情報収集の方法
5. 利用者の「している活動」「本人の思い」
6. 情報収集の実際 事例（身体機能、コミュニケーション）
7. " （一日の過ごし方、生活歴、人間関係）
8. " （起居・移動動作）
9. " （排泄）
10. " （清潔・整容）
11. " （医療面について）
12. " （フェイスシートの記入）
13. 情報収集の実際 まとめ
14. 介護実習Ⅱ-①に向けて「アセスメント」の実際 ①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・提出物（90%）、授業態度（10%）

教科書

- ・『介護過程』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配付する

備考

介護施設で介護職・介護支援専門員に従事した経験を持つ教員が、情報収集の方法について解説する。

授 業 科 目	介護総合演習 I			担 当 者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

介護実習とは何かを理解し、介護実習 I に必要な知識や技術を確認する。

到達目標

- ・介護実習 I に必要な知識や技術を身に付けることができる。
- ・介護実習を始めるための諸手続きが行える。

授業計画

【前期】

1. 介護実習の意義と目的
2. 高齢者の暮らしを考える
3. 実習 I のねらいと実習モデル
4. 実習 I で想定される実習先 ①特別養護老人ホーム ②介護老人保健施設
5. " ③通所介護 ④その他の実習先
6. 実習を始めるまでの手続き①
7. " ②
8. " ③
9. 生活支援技術を軸にした介護実習 「実習日誌」 ①
10. " ②
11. " ③
12. " ④
13. 実習前指導、実習前の諸注意、書類の確認
14. 実習後指導
15. 実習報告会

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・提出物 (90%)、授業態度 (10%)

教科書

- ・『介護総合演習・実習』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配付する

備考

介護施設で介護福祉士実習指導者に従事した経験を持つ職員が、実習 I に必要な知識や技術を解説する。

授業科目	介護実習 I			担当者	吉岡 俊昭		実務経験
履修方法	実習	期間	前期	学科・学年	介護1年	時間数	90

授業の目的・内容

12日(90時間)の介護現場での実習を行う。比較的元気な高齢者とのコミュニケーションを図り、関わることにより、高齢者の生活の様子や興味・関心を理解する。また、高齢者が生きてきた時代を理解することを通して、高齢者の生活を多面的に理解し利用者援助に役立てる。さらに、介護職員からの指導を受けながら介護業務に関わることで、介護福祉士としての基礎作りを行い、今後の学習に生かす。

到達目標

- ・言語的コミュニケーションが比較的可能な利用者との人間的なふれあいを通して、利用者の特性を理解する。
- ・利用者の日常生活を知り、介護の機能ならびに施設職員の一般的役割について理解する。
- ・初歩的な日常生活援助ができる。

授業計画

【前期】

12日間(90時間)の介護実習を行う。12日間を通して具体的に学習する内容は下記の通りである。

- (1) 実習施設の概要を理解する。
- (2) 職員の構成と職務内容を理解する。
- (3) 利用者の日常生活を理解する。
- (4) 介護職の役割を理解する。
- (5) 基本的な日常生活援助を理解する。
- (6) 利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。
- (7) 指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。

事前・事後学習の内容

事前学習として

- ・高齢者の身体的、心理的な特徴
- ・高齢者のコミュニケーションの特性
- ・配属された実習施設の理解を図る。
- ・利用者が生きてきた時代背景 など充実した介護実習が行なえるようにする。

事後学習として

- ・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習や次回の実習での課題を明らかにする。

評価の方法・基準

- ・①実習前の提出物(20%)、②実習日誌(20%)、③実習に対する姿勢(20%)、④実習での学び(20%)、⑤実習指導者による実習評価(20%)を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・2019年度介護実習要綱

備考

授業科目	介護実習Ⅱ-①			担当者	吉岡 俊昭		実務経験
履修方法	実習	期間	後期	学科・学年	介護1年	時間数	180

授業の目的・内容

12日間（90時間）の介護実習を2回行う。

生活支援技術が必要な高齢者や障がい者が生活している施設での実習を通して、介護支援が必要な利用者の身体・生活状況を理解し、利用者を支援する生活支援技術を学び実施する。

利用者の個性を理解しながら、自ら考察しながら根拠に基づいた介護実践できる基礎力を身に付ける。

対象利用者を決め、心理・精神・身体・社会・生活面など多面的に利用者の情報を収集し整理し、ICFの考え方に基づいた介護過程の第1段階を身に付ける。

到達目標

- ・利用者の障害レベルに応じて求められる生活支援技術が実践できる。
- ・利用者のニーズを充足するための情報の収集ができる。
- ・医療・看護との連携の方法について学ぶ。
- ・利用者の状態について観察し、正しく記録できる。

授業計画

【後期】

12日間（90時間の）実習内容は下記の通りであり、前半・後半2回の介護実習を行う。

- (1) 実習施設の概要を理解する。
- (2) 職員の構成と職務内容を理解する。
- (3) 利用者の日常生活を理解する。
- (4) 介護職の役割を理解する。
- (5) 基本的な日常生活援助を理解する。
- (6) 利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。
- (7) 指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。
- (8) 職務内容および職員間のチームワークのあり方を学ぶ。
- (9) 健康管理援助（予防的介護）の仕方を学ぶ。
- (10) レクリエーションを企画し、実践する。
- (11) 指導者の監督・指導のもとに、1名の利用者を受け持ち、個別援助計画を立案するための情報収集を行う。

事前・事後学習の内容

事前学習として

- ・ICFの視点に基づいた介護過程の段階と情報収集の意味を理解する。
- ・生活支援が必要な利用者の心理・精神的・身体的な特徴と、疾病や障がいについて理解する。
- ・配属された実習施設の理解を図る。
- ・レクリエーションの計画作成と展開方法を学習する。

事後学習として

- ・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習や次回の実習での課題を明らかにする。

評価の方法・基準

- ・①実習前の提出物(20%)、②実習日誌(20%)、③実習に対する姿勢(20%)、④実習での学び(20%)、⑤実習指導者による実習評価(20%)を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・2019年度介護実習要綱

備考

授業科目	発達と老化の理解 I			担当者	藤井 玲子		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	介護1年	時間数	30

授業の目的・内容

人間の成長と発達について①身体・生理的側面②社会的側面③心理的側面から基礎知識を習得する。高齢者の心理的特性を学習することにより、高齢者に的確な支援を考える力を養う。

到達目標

- ・発達の観点から老化に関する基礎知識を習得し、その知識を応用して自立と尊重を守る支援ができる。
- ・要介護者に対する対応の基本的姿勢を形成する。

授業計画

【前期】

1. 発達とは
2. 発達段階と発達課題①
3. " ②
4. 老年期の定義
5. 老年観
6. 人間の尊厳を守る
7. 高齢者と死、性
8. 共感的理解と基本的態度の形成
9. 感覚機能の変化と日常生活への影響
10. 記憶機能
11. 認知機能
12. パーソナリティ
13. 老いの需要と適応
14. 高齢者の心の問題と精神障害
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・板書したことは必ずノートにとり復習すること。
- ・ワークブックの国家試験の過去問題は自分でやってみること。
- ・授業の与点は自分で説明できる位、理解しておくこと。

評価の方法・基準

- ・出席状況・授業態度(10%)、小テスト・提出物(10%)、期末試験の総合得点(80%)で評価

教科書

- ・「レジュメ」を使用する。
- ・「発達と老化の理解 ワークブック I」を使用する。

備考

授 業 科 目	発達と老化の理解Ⅱ			担 当 者	浜田 美雪		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的な知識を習得する。

到達目標

- ・症状や疾患などに関連した専門用語を正しく認識することができる。(読む、書く、意味の理解)
- ・老化に関連した症状や疾患に対し、正しい知識で判断、対応することができる。

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション
2. 高齢者の症状の現れ方の特徴・疾患の特徴
3. 高齢者の体の不調の訴え
4. 生活習慣病①
5. " ②
6. " ③
7. 骨・関節系の疾患
8. 眼・耳・皮膚疾患
9. 呼吸器の疾患
10. 腎・泌尿器の疾患
11. 脳・神経系の疾患
12. 消化器・循環器系の疾患
13. 精神疾患
14. 総復習
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・事前課題がある場合がある。
- ・授業初めに前回内容の小テストを実施する場合があるので復習しておく。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(60%)、提出物(20%)、他、出席状況、授業態度で(20%)

教科書

- ・『発達と老化の理解』(中央法規)

備考

授業科目	認知症の理解 I			担当者	香川 満子		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	介護1年	時間数	30

授業の目的・内容

認知症に関する基礎的知識を取得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

パーソン・センタード・ケア、その人らしさを大切にする介護に基づく理論と実践方法を学ぶ。

到達目標

- ・認知症の定義を知り、認知症ケアのこれまでと認知症ケアの理念や視点、療法などについて説明できる。
- ・介護職として身につけておくべき認知症の医学的知識を学び、認知症の人の行動・心理について説明できる。

授業計画

【前期】

1. 認知症とは何か
2. 認知症ケアの歴史、認知症ケアの理念と視点
3. 認知症の人の行動・心理症状①
4. " ②
5. 脳のしくみ
6. 認知症に類似した状態
7. 認知症の原因疾患①
8. " ②
9. " ③
10. " ④
11. 認知症の診断と治療
12. 認知症の予防
13. 認知症の人の心理的理解
14. まとめ①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・テキストの次回授業範囲を読んでおくこと。
- ・前回授業のポイントを復習しておくこと。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(80%)、提出課題(10%)、授業態度(10%)

教科書

- ・『認知症の理解』（中央法規出版）

備考

認知症専門士の資格を有し、認知症ケアに携わった経験を持つ教員が、認知症の基礎的知識からその人らしさを大切にした介護のあり方について講義をする。

授 業 科 目	認知症の理解Ⅱ			担 当 者	香川 満子		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

認知症に関する基礎的知識を取得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

パーソン・センタード・ケア、その人らしさを大切にする介護に基づく理論と実践方法を学ぶ。

到達目標

- ・認知症の人の体験や認知機能の変化がどのように生活に影響しているかを理解し、生活を続けるための環境をどのように提供するかを考え説明できる。
- ・認知症のステージに応じた介護について、介護職としての関わり方を説明できる。
- ・認知症の人が「その人らしく暮らす」ために、地域の力や家族の力を活かす方法を考えることができる。
- ・認知症に関する制度、関係機関の関わり方が説明できる。

授業計画

【後期】

1. 認知症の理解Ⅰの復習
2. 認知症の人の体験の理解
3. 認知症の人の生活理解①
4. " ②
5. " ③
6. " ④
7. 認知症の人に対する介護①
8. " ② 認知症の人の介護過程
9. " ③
10. 地域の力を活かす
11. 家族の力を活かす①
12. " ②
13. 認知症に関する制度・関係機関
14. まとめ①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・テキストの次回授業範囲を読んでおく。
- ・前回授業のポイントを復習しておくこと。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(80%)、提出課題(10%)、授業態度(10%)

教科書

- ・『認知症の理解』（中央法規出版）

備考

認知症専門士の資格を有し、認知症ケアに携わった経験を持つ教員が、認知症の基礎的知識からその人らしさを大切にした介護のあり方について講義をする。

授 業 科 目	障 害 の 理 解 I			担 当 者	金 光 久 美		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を理解し、本人や家族も含めた介護上の留意点について学習する。また、介護現場で重要となる自立に向けた生活支援ができるよう、生活に視点を置いた基本的な支援方法について学ぶ。

到達目標

- ・ 障害の原因や代表的な障害の病態について説明できる。
- ・ 障害をもたらす日常生活への影響について説明できる。
- ・ 障害をもたらす心理面への影響について説明できる。
- ・ 自立に向けた支援方法について説明できる。

授業計画

【前期】

1. 視覚障害のある人の医学的・心理的・生活の理解と介護上の留意点
2. 聴覚・言語障害、重複障害 //
3. 運動機能障害 //
4. 知的障害、発達障害 //
5. 精神障害 //
6. 高次脳機能障害 //
7. 重症心身障害 //
8. 心臓機能障害 //
9. 腎機能障害 //
10. 呼吸機能障害 //
11. 膀胱・直腸機能障害 //
12. 免疫機能障害 //
13. 肝臓機能障害 //
14. 難病 //
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・ 授業終了時に示す課題について、次回授業開始時に答え合わせをしていく。

評価の方法・基準

- ・ 学期末テスト(80%)、レポート(20%)

教科書

- ・ 『障害の理解』（中央法規出版）

備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、障害に関する医学的知識、心理的・生活の理解、介護上の留意点について解説する。

授 業 科 目	障 害 の 理 解 Ⅱ			担 当 者	金 光 久 美		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

障害の概念、障害者福祉の基本理念を学び、障害のある人がどのような介護技術が必要としているのかを学ぶ。また、家族支援のあり方や多職種との連携・協働について学習する。

到達目標

- ・ 障害者の法的定義について説明できる。
- ・ 障害のある人に対する介護の基本的視点について説明できる。(自己決定、エンパワメント、権利擁護)
- ・ 障害のある人の社会資源の活用方法について説明できる。
- ・ 家族支援のあり方について説明できる。
- ・ 介護福祉士以外の保健医療福祉職種との連携について説明できる。

授業計画

【後期】

1. 障害のある人の暮らし 成年後見制度
2. わが国における障害者の法的定義
3. リハビリテーションの意味と理念、目的
4. 障害のある人の自己決定
5. エンパワメント
6. 権利擁護
7. 社会資源の利用と開発①
8. " ②
9. 福祉機器
10. 居宅支援と自立
11. 家族支援の視点
12. 家族の状態の把握と介護負担の軽減
13. 多職種との連携
14. 地域におけるサポート体制
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・ 授業終了時に示す課題について、次回授業開始時に答え合わせをしていく。
- ・ 授業終了時に示す課題についてレポートを作成する。

評価の方法・基準

- ・ 学期末テスト(80%)、レポート(20%)

教科書

- ・ 『障害の理解』(中央法規出版)

備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、障害の概念、障害者福祉の基本理念、家族への支援のあり方について解説する。

授業科目	こころとからだのしくみ I			担当者	金光 久美		実務経験
							○
履修方法	講義	期 間	後期	学科・学年	介護1年	時 間 数	30

授業の目的・内容

介護福祉士が支援していくうえで必要な利用者理解のための基本として、人のこころとからだのしくみについて学習する。

人の心理的側面のみならず、「死」についての考察を深め、死と直面する相手と向き合えるようになることを目指す。

到達目標

- ・脳のつくりと働きについて説明できる。
- ・こころと脳のつながりについて説明できる。
- ・高齢者の睡眠障害の特徴、支援方法について説明できる。
- ・終末期から危篤時、死亡時のからだの変化について説明できる。
- ・死生観について考えを深め、述べることができる。

授業計画

【前期】

1. 脳のつくりと働きの理解
2. こころと脳のつながり
3. 認知のしくみ
4. 人間の行動を引き起こすこころのしくみ
5. 社会的人間としてのこころのしくみ
6. 睡眠に関する基礎知識
7. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ
8. 高齢者の睡眠障害
9. 「死」のとらえ方
10. 尊厳死
11. 終末期から危篤時・死亡時のからだの理解
12. 脳死について
13. 「死」に対するこころの理解
14. 医療職との連携
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題についてレポートする。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(80%)、レポート(20%)

教科書

- ・『こころとからだのしくみ』（メヂカルフレンド社）

備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、人間の基本的なこころとからだのしくみについて解説する。

授 業 科 目	医 療 的 ケ ア I			担 当 者	金 光 久 美		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な、基礎的知識を習得する。

到達目標

- ・医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割について述べられる。
- ・感染予防および健康状態の把握など医療的ケアを安全・適切に実施するうえでの内容が述べられる。
- ・健康状態をはかる指標としてのバイタルサインの見方、測定ができる。
- ・救急蘇生法が実践できる。

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション、なぜ医療的ケアを学ぶのか
2. 個人の尊厳と自立
3. 医療の倫理、利用者や家族の気持ちの理解
4. 保健医療制度とチーム医療 ①
5. " ②
6. 安全な療養生活 ①
7. " ②
8. " ③
9. " ④
10. 感染予防と清潔保持 ①
11. " ②
12. 健康状態の把握 ①
13. " ②
14. " ③
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題について、次回授業開始時に答え合わせをしていく。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(100%)

教科書

- ・『医療的ケア』（メヂカルフレンド社）

備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、医療的ケア実施の基礎的知識について解説する。

授業科目	パソコンI			担当者	椿 幸治		実務経験
履修方法	演習	期 間	前期	学科・学年	介護1年	時 間 数	30

授業の目的・内容

現代社会で必要となるパソコン技術において最も基本的な MS-Word を用いたワープロの基本操作を学習し、表やFAXなどの文書作成に作成できるようにする。また、情報社会を生き抜いていくために SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）など必要な情報モラルを学習する。

到達目標

- ・情報社会に必要な情報モラルを理解する。
- ・日本語ワープロ検定3級以上の資格を習得する。
- ・パソコンスピード認定試験（日本語）4級以上の資格を習得する。

【前期】

1. SNSなどの情報モラル、MS-Wordの基本的な使い方
2. タイピング練習、表及び文書作成
3. 日本語ワープロ検定3級、パソコンスピード認定試験（日本語）の演習 ①
4. " " ②
5. 日本語ワープロ検定2級の演習
6. 検定試験対策 ①
7. " " ③
8. " " ④
9. " " ⑤
10. " " ⑥
11. " " ⑦
12. " " ⑧
13. 検定試験
14. 日本語ワープロ検定の演習
15. まとめ（実技試験）

事前・事後学習の内容

- ・パソコンによるタイピング練習（日本語）を事前に行う。
- ・授業で配布されるプリントを完成する。

評価の方法・基準

- ・検定試験(40%)、実技試験(40%)、提出物及び授業態度(20%)により評価する。

教科書

- ・『学生のための Office2016&情報モラル』（noa 出版）

備考

7月中旬に日本語ワープロ検定試験、パソコンスピード認定試験（日本語）を行う。

授 業 科 目	レクリエーション			担 当 者	吉岡 俊昭		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

福祉現場におけるレクリエーションの必要性を理解し、現場に即したレクリエーションを企画、展開することができるようになる。また、人それぞれに違う「楽しい」を追求しその人にとっての楽しいが人間の生きがいにつながることを学ぶ。

到達目標

- ・レクリエーションの企画、展開ができるようになる。
- ・身近にあるものを使って、レクリエーションを実施することが出来るようになる。
- ・対象者に応じたレクリエーションを展開することができる。

授業計画

【前期】

1. レクリエーションの必要性
2. レクリエーション企画書の書き方
3. レクリエーション体験①
4. " ②
5. 身近な物を使ってのゲームアレンジ①
6. " ②
7. " ③
8. 対象者に合わせたレクリエーションの企画
9. 歌や楽器を使ったレクリエーション①
10. " ②
11. 対象者に合わせたレクリエーションの実践①
12. " ②
13. " ③
14. " ④
15. 実習で行うレクリエーションに企画

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題について、次回授業開始時まで準備しておく。

評価の方法・基準

- ・レポート課題(20%)、実技試験(50%)、チームでの協力(30%)による総合評価

教科書

- ・なし

備考

介護施設で介護職・生活相談員に従事した経験を持つ教員が、レクリエーションの必要性と展開方法等、実技を実践しながら解説する。

授 業 科 目	国語表現法			担 当 者	渡山 治子		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

医療・福祉・介護の現場で働く社会人として必要な表現力の基礎・基本を講義と演習によって学び、言葉の機能を十分に働かせるための知識・技能・方法を身につける。

到達目標

- ・言葉の機能を十分に働かせるための学習する全般的な漢字力を身につけ、その具体的な証として漢字能力検定を取得することができる。
- ・各現場で必要とされる文章力を身につけ、正しい語彙を用いて適切な文章を書くことができる。

授業計画

【前期】

1. 漢字の基礎①（部首・送り仮名）
2. " ②（読み取り・書き取り）
3. 単語の基礎（同音同訓異義語）
4. 熟語の基礎（構成・対義語・類義語・四字熟語）
5. 漢字の誤字訂正
6. 慣用句・ことわざ・故事成語
7. 文章の基礎①（主語・構想・叙述）
8. " ②（言葉の選択・主述の呼応）
9. 文章を書くために（構成・文体・文末表現）
10. 文章を書く①
11. " ②
12. " ③
13. 手紙文の書き方
14. 漢字検定模擬テスト
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業初めに課題内容の小テストを毎回実施するので、その課題を学習しておく。

評価の方法・基準

- ・学期末テスト(50%)、小テスト（全回数平均点）(40%)、提出物の提出状況・その他(10%)

教科書

- ・指導者作製によるプリント使用

備考

介護福祉学科
2年

授 業 科 目	家政学Ⅱ			担 当 者	齋 木 亜 子		実務経験
履 修 方 法	実 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	4 5

授業の目的・内容

生活支援技術Ⅱ-②での知識をふまえ、実習を通して高齢者や障害者の家事支援の技術を身に付ける。

到達目標

- ・すそのまつり縫いやボタンつけなど、簡単な被服の修復ができる。
- ・洗剤、漂白剤を正しく使用し、衣類の管理ができる。
- ・家庭内にある食材を用いて、利用者に昼食を提供するサービスができる。
- ・住居の掃除ができる。

授業計画

【前期】

- 1・2. 衣：基本縫い①：なみ縫い
 3. 衣： // ②：本返し縫い、半返し縫い、まつり縫い
 - 4・5. 衣： // ③：ボタン付け、かぎホック付け
 6. 衣：作品制作Ⅰ—①
 - 7・8. 衣： // Ⅰ—②
 9. 衣： // Ⅰ—③
- } 基本縫いが身につくティッシュケースやティーマット等
- 10・11. 食：トロミ調整剤と肉をやわらかくする方法（実験）
 12. 衣：作品制作Ⅱ—①
 - 13・14. 衣： // Ⅱ—②
 15. 衣： // Ⅱ—③
- } 実習先に持参できるお手玉や握りやすいボール等
- 16・17. 衣：被服管理①：洗剤・漂白剤・しみぬきの方法（実験）
 18. 衣： // ②：布の吸水性、燃焼性（実験）
 - 19・20. 食：在宅における調理支援（1人での調理実習）
 21. 衣：指先を使う作品（指編み、織物、ラベルアート、塗り絵、ちぎり絵 等）
 - 22・23. 住：住居の清掃方法

事前・事後学習の内容

- ・作品制作が遅れないように、次回授業までに前回の到達目標までを仕上げしておく。

評価の方法・基準

- ・作品（70%）、実験のレポート（20%）掃除後片づけ（10%）

教科書

- ・プリント配布

備考

授 業 科 目	介護の基本Ⅱ			担 当 者	吉岡 俊昭		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	6 0

授業の目的・内容

高齢者・障害者の生活を、保健・医療・福祉の専門職が、家族と協働して要介護者の生活ニーズを充足させるために利用できる介護サービスや自立支援サービスにはどのようなものがあるのか知る。また他職種との連携の必要性や方法を知る。

利用者の安全確保と介護者自身の健康管理について学ぶ。

到達目標

- ・介護福祉士についての制度や法律について理解できる。
- ・高齢者・障害者の生活ニーズを充足するために必要なサービスが理解できる。
- ・利用者の安全確保と介護者自身の健康管理について理解できる。
- ・介護福祉士として働くための労働環境の整備や労働基準法について理解できる。

授業計画

【前期】

1. 介護福祉士とは（取り巻く状況）
2. 社会福祉士及び介護福祉士法
3. 介護福祉士の倫理
4. 介護サービスの特性
5. ケアマネジメントの意味と仕組み
6. 介護サービスの歴史
7. 介護サービスの種類と提供の場
8. 介護サービス提供の場の特性
9. 居宅サービス提供の場とその特性
10. 入所サービス提供の場とその特性
11. 他職種連携
12. 協働職種の理解と連携
13. 地域連携の意義と目的
14. 地域連携にかかわる機関の理解
15. まとめ

【後期】

16. 介護における安全の確保
17. 安全確保のためのリスクマネジメント
18. 事故防止と安全対策
19. " の基礎と実際
20. 生活の場での感染対策
21. 高齢者介護施設と感染対策
22. 感染対策とリスクマネジメント
23. 感染対策の基礎知識
24. 健康管理の意義と目的
25. 健康管理に必要な知識と技術（こころ）
26. からだの健康管理
27. 感染症の予防と対策
28. 労働環境の整備・労働基準法
29. 労働安全衛生法・労働者災害補償保険
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題について、次回授業開始時まで準備しておく。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(70%)、授業への参加度・発言の積極性(30%)

教科書

- ・『介護の基本Ⅱ』（中央法規出版）

備考

介護施設で介護職・生活相談員に従事した経験を持つ教員が、地域を基盤とした生活の継続や要介護者の生活ニーズを充足させるために利用できる支援について解説する。

授 業 科 目	介護の基本Ⅲ			担 当 者	金光 久美		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	6 0

授業の目的・内容

介護を必要とする人への理解を深め、様々なサービスの概要を理解し、実際の生活支援技術を考える。また、介護福祉士として多職種との協働や制度の仕組みについて学習する。

到達目標

- ・介護保険制度における介護サービス等の種類、内容について説明できる。
- ・障害者総合支援法におけるサービス等の種類、内容について説明できる。
- ・利用者を支援する様々な専門職種、地域の関係機関の機能と役割について説明できる。
- ・介護における安全確保とリスクマネジメントの必要性について述べることができ、具体的な事故と予防策について、実践例をもとに考えを述べるができる。
- ・代表的な感染症の感染防止対策が説明できる。

授業計画

【前期】

1. 介護サービスの意味と特性
2. 介護サービスとケアマネジメント
3. 介護サービスの歴史的変遷、時代背景
4. 介護サービス提供の場の特性
5. " (居宅サービスの実際)
6. " "
7. " "
8. " (入所サービスの実際)
9. " "
10. 障害者に対するサービス提供の場とその特性
11. " "
12. " "
13. " "
14. 事例から必要な介護支援について
15. 中間まとめ

【後期】

16. 多職種連携の意義・目的
17. 協働職種の機能と役割
18. 地域連携の意義・目的
19. 関連機関の機能と役割
20. 介護における安全確保と必要性
21. 安全確保のためのリスクマネジメント
22. 事故防止・安全対策
23. " の実際
24. 生活の場における感染対策
25. 高齢者施設における感染
26. " 対策
27. 感染対策の基礎知識 ①
28. " ②
29. 国試対策
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題について、提出日までに行う。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(80%)、レポート(20%)

教科書

- ・『介護の基本Ⅱ』（中央法規出版）

備考

授 業 科 目	生活支援技術 I			担 当 者	常本 浩美		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

生活と高齢者の生活支援について、リハビリテーションの視点をふまえて理解する。又、人と環境について学び、環境整備と福祉用具の活用を考える。加えて、リスクマネジメントの考え方について理解する。

到達目標

- ・対象者の状態にあわせて、リハビリテーションの視点をふまえた、生活支援ができる。

授業計画

【前期】

1. 高齢者の特徴
2. 生活支援の基本的な考え方
3. 生活支援とリハビリテーション
4. ICFの視点と生活支援
5. 事例 脳血管障害
6. 事例 認知症
7. 疾患別の特徴 パーキンソン病・脊髄損傷 等
8. 生活環境づくり
9. リスクと環境整備
10. 介護予防・地域支援について
11. 福祉用具について
12. 人的環境について
13. 家族支援について
14. 緊急時の対応・ふり返り
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時、プリントや資料（授業で使用したもの）をきちんとファイリングし復習する。

評価の方法・基準

- ・授業態度(20%)、出席(30%)、試験結果(50%)で判断する。

教科書

- ・介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術 I』（中央法規出版）

備考

授 業 科 目	生活支援技術Ⅱ-②			担 当 者	齋木 亜子		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前期	学科・学年	介護2年	時 間 数	30

授業の目的・内容

健康で社会的・文化的な生活を営むうえで重要な役割を果たす被服の役割や管理、および家庭を取り巻く経済について学ぶ。

介護福祉士として、自立に向けた在宅支援（家事支援）をするうえで必要な知識を習得する。

到達目標

- ・被服の組成や取扱い表示を見て、素材や洗濯、管理の方法がわかる。
- ・消費者保護、悪質商法を理解し、日常生活で気をつけることができる。
- ・高齢者、障害者にとって着やすく心地よい被服を考えることができる。
- ・調理や掃除、買い物など日常的な家事について、利用者を主体とした生活維持を考えることができる。

授業計画

【前期】

1. 被服の機能、被服の管理①（裁縫）
2. 被服の管理②（素材）
3. " ③（洗濯）
4. " ④（保管・アイロンがけ）
5. 被服と皮膚の衛生保持・管理
6. 着やすく心地よい被服（高齢者・障害者の被服を考える）
7. 家庭生活について（家族とは、家庭管理）
8. 家庭経済について（消費者保護）
9. 家事の支援の意義と目的
10. 家事支援における介護技術①（調理）
11. " ②（洗濯、掃除、裁縫）
12. " ③（衣類の管理、買い物、家計管理）
13. 他職種の役割と協働
14. 国家試験対策
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・事前に授業範囲の教科書を読んでおく。
- ・授業の始めに前回の復習小テストを実施するため、配布資料をもとに復習すること。

評価の方法・基準

- ・小テスト(10%)、筆記試験(90%)

教科書

- ・『生活支援技術Ⅰ』（中央法規出版）

備考

授 業 科 目	介護総合演習Ⅲ			担 当 者	藤原 久礼		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

前半は文献研究の進め方を学び、介護福祉士として求められる事例研究に必要な知識と技術を身に付ける。後半は介護実習で実施した介護過程の展開を、事例研究としてまとめ発表する。

到達目標

- ・介護実習で得た事例をもとに、事例研究としてまとめることができる。
- ・事例研究としてまとめた成果物を発表用のスライドにすることができる。
- ・発表用のスライドと原稿をもとに、時間内で発表することができる。
- ・事例研究発表の方法や手順を理解し実践することができる。

授業計画

【後期】

1. 事例研究概要報告書の作成
2. 事例研究概要 Word 作成①
3. " ② (担当教員に指導を受け、研究概要を完成する)
4. 事例研究Power Point 作成① (発表原稿の作成を含める)
5. " ② (")
6. " ③ (アニメーション、発表原稿の作成を含める)
7. " ④ (")
8. 事例研究発表リハーサル (個別リハーサル、Power Point と発表原稿の修正)
9. 事例研究発表リハーサル・修正
10. 事例研究発表リハーサル・修正 (最終Power Point と発表原稿の完成)
11. 事例研究発表①
12. " ②
13. " ③
14. " ④
15. " ⑤

事前・事後学習の内容

- ・事例研究の原稿・発表用スライド・発表原稿の作成
- ・発表のリハーサル

評価の方法・基準

- ・事例研究概要とPower Point の出来栄え(50%)、事例研究発表の内容(50%)で総合評価を行う
- ※授業以外の時間に担当教員の指導を受けながらPower Point と発表原稿の修正を各自行い、リハーサルと研究発表に間に合わせる事。また、パソコン教室の使用状況、事例研究発表の状況によって、授業時間を同日に複数時間とることがあるので欠席には十分気を付けること。

教科書

- ・プリント配布

備考

授業科目	介護実習Ⅱ-②			担当者	吉岡 俊昭		実務経験
履修方法	実習	期 間	前期	学科・学年	介護2年	時 間 数	200

授業の目的・内容

- ① 25日間（200時間）の介護実習を行う。
- ② 生活支援技術が必要な高齢者や障がい者が生活している施設での実習を通して、介護支援が必要な利用者の身体・生活状況を理解し、利用者を支援する生活支援技術を学び実施する。
- ③ 利用者の個性を理解しながら、自ら考察しながら根拠に基づいた介護実践できる基礎力を身に付ける。
- ④ 対象利用者を決め、ICFの考え方にに基づき、心理・精神・身体・社会・生活面など多面的に利用者の情報の収集、アセスメント、個別援助計画の作成、実施、評価を行う。

到達目標

- ・ 利用者の状態について観察し、正しく記録できる。
- ・ 利用者の障害レベルに応じて求められる生活支援技術が実践できる。
- ・ 利用者のニーズを充足するための情報収集、アセスメント、個別援助計画の作成ができる。
- ・ 個別援助計画に沿った介護支援を実施し、評価することができる。
- ・ 処遇全般についてチームの一員として理解するとともに、医療・看護との連携の方法について学ぶ。

授業計画

【後期】

25日間（200時間）の実習内容は下記の通りである。

- | | |
|---------------------------------------|---|
| (1) 実習施設の概要を理解する。 | (9) 健康管理援助（予防的介護）の仕方を学ぶ。 |
| (2) 職員の構成と職務内容を理解する。 | (10) レクリエーションを企画し、実践する。 |
| (3) 利用者の日常生活を理解する。 | (11) 指導者の監督・指導のもとに、1名の利用者を受け持ち、個別援助計画を立案・実施・評価する。 |
| (4) 介護職の役割を理解する。 | (12) カンファレンスに参加し、多職種協働の重要性を理解する。 |
| (5) 基本的な日常生活援助を理解する。 | (13) 夜間勤務を1回経験し、指導者の指示により夜間の業務内容および利用者の状態を理解する。 |
| (6) 利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。 | (14) 指導者の監督・指導のもとに、終末期の一部を見学する。
(機会があれば) |
| (7) 指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。 | |
| (8) 職務内容および職員間のチームワークのあり方を学ぶ。 | |

事前・事後学習の内容

事前学習として

- ・ ICFの視点に基づいた介護過程の段階である情報収集、アセスメント、個別援助計画の意味を理解する。
- ・ 生活支援が必要な利用者の心理・精神的・身体的な特徴と、疾病や障がいについて理解する。
- ・ 配属された実習施設の理解を図る。
- ・ レクリエーションの計画作成と展開方法を学習する。

事後学習として

- ・ 実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習の課題を明らかにする。

評価の方法・基準

①実習前の提出物（10%）、②実習日誌（10%）、③実習に対する姿勢（10%）、④実習での学び（10%）、⑤アセスメント・個別援助計画・評価シート（10%）、実習指導者による実習評価（50%）を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・ 2019年度 介護実習要綱

備考

授業科目	こころとからだのしくみⅢ			担当者	浜田 美雪		実務経験
履修方法	講義	期 間	通年	学科・学年	介護2年	時 間 数	60

授業の目的・内容

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。

到達目標

- ・症状や疾患などに関連した専門用語を正しく認識することができる。(読む、書く、意味の理解)
- ・老化に関連した症状や疾患がある方へ介護する際、正しい知識で判断、対応することができる。
- ・心理的側面について考えることができる。
- ・多職種との連携、報告、相談が円滑に行える。

授業計画

【前期】

1. 介護実践に必要な根拠とは
2. 身じたくに関連する基礎知識
3. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ
4. 機能低下・障害が及ぼす身じたくへの影響
5. 異常の発見のために注意すべき「変化」
6. 活動に関連する基礎知識
7. 活動と生活動作
8. 活動の低下・障害が及ぼすこころとからだへの影響
9. 異常の発見のために注意すべき「変化」
10. 食事に関する基礎知識
11. 食事に関連したこころとからだのしくみ
12. 機能低下・障害が及ぼす食事への影響
13. 異常の発見のために注意すべき「変化」
14. 安全な食事のための留意点
15. まとめ

【後期】

16. 入浴・清潔保持に関連する基礎知識
17. 入浴・清潔保持の実際
18. 機能低下・障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響
19. 異常の発見のために注意すべき「変化」
20. 排泄に関連する基礎知識
21. 排泄の意義としくみ
22. 機能低下・障害が及ぼす排泄への影響
23. 異常の発見のために注意すべき「変化」
24. 観察とは (バイタルサイン)
25. 血圧測定
26. 認知症のある方への生活支援のポイント
27. 薬の知識①
28. // ②
29. まとめ①
30. // ②

事前・事後学習の内容

- ・授業初めに前回内容の小テストを実施する場合がありますので復習しておく。
- ・各章の終了時に確認テストを行う。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(60%)、提出物(20%)、他、出席状況、授業態度(20%)

教科書

- ・『こころとからだのしくみ』(メヂカルフレンド社)

備考

授 業 科 目	医 療 的 ケ ア Ⅱ			担 当 者	金 光 久 美 香 川 満 子		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	6 0

授業の目的・内容

医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な、基礎的知識を習得する。

到達目標

- ・呼吸のしくみと働き、いつもと違う呼吸状態について説明できる。
- ・消化器系のしくみと働き、消化器の症状について説明できる。
- ・急変、事故発生時の対応と事前対策について説明できる。
- ・医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちについて考えを述べるができる。
- ・喀痰吸引、経管栄養の実施の手順と留意点について述べるができる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 呼吸のしくみ、いつもと違う呼吸
3. 喀痰吸引とは
4. 人工呼吸器と吸引
5. 子どもの吸引
6. 喀痰吸引に伴うケア
7. 利用者・家族の気持ち、説明と同意
8. 感染と予防、吸引による事故
9. 急変時の対応
10. 消化器系のしくみ
11. 経管栄養とは
12. 栄養剤に関する知識、実施上の留意点
13. 子どもの経管栄養、必要なケア
14. 利用者や家族の気持ち、説明と同意
15. 中間まとめ

【後期】

16. 感染予防、経管栄養による危険
17. 急変・事故発生時の対応
18. まとめ
19. 喀痰吸引の実施手順 ①
20. " ②
21. " ③
22. " ④
23. " ⑤
24. " ⑥
25. 経管栄養の実施手順 ①
26. " ②
27. " ③
28. " ④
29. " ⑤
30. " ⑥

事前・事後学習の内容

- ・実技試験に向けて、自主練習を演習グループで行う。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(100%)

教科書

- ・『医療的ケア』（メヂカルフレンド社）

備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、喀痰吸引・経管栄養の基礎的知識、実施手順について解説、実演する。

授 業 科 目	医 療 的 ケ ア Ⅲ			担 当 者	金光 久美		実務経験
					香川 満子		○
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な、基礎的技術を習得する。

到達目標

- ・ 清潔操作に留意しながら、口腔内吸引が手順通りにできる。
- ・ " 、鼻腔内吸引が手順通りにできる。
- ・ " 、気管内吸引が手順通りにできる。
- ・ " 、胃ろうからの経管栄養が手順通りにできる。
- ・ " 、経鼻経管栄養が手順通りにできる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 口腔内・鼻腔内吸引(通常手順) ①
3. " ②
4. " ③
5. ④
6. 気管カニューレ内部吸引(通常手順) ①
7. " ②
8. " ③
9. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 ①
10. " ②
11. " ③
12. " ④
13. 経鼻経管栄養 ①
14. " ②
15. " ③

事前・事後学習の内容

- ・ 評価項目の実技試験に向けて、演習グループで自主練習を行っていく。

評価の方法・基準

- ・ 実技試験(100%)

教科書

- ・ 『医療的ケア』(メヂカルフレンド社)

備考

医療機関で看護師として従事した経験を持つ教員が、喀痰吸引・経管栄養の基礎的知識・実施手順について解説する。

授 業 科 目	パソコンⅡ			担 当 者	椿 幸治		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

介護実習で学んだ内容を事例研究発表することで介護の現場で求められるプレゼンテーション能力と資料の作成方法を身につける。また、論文形式である事例研究集の作成手順を学ぶ。

到達目標

- ・論文形式の文書作成を身に付ける。
- ・介護実習に適切な発表を身に付ける。
- ・質疑応答で適切な回答が答える。

【後期】

1. 事例研究概要報告書の作成
2. 事例研究概要 Word の作成①
3. " ②
4. " ③
5. " ④
6. 事例研究 PowerPoint Point の作成①
7. " ②
8. " ③
9. " ④
10. 事例研究発表リハーサル
11. 事例研究発表 ①
12. " ②
13. " ③
14. 事例研究集の作成 ①
15. " ②、質疑応答

事前・事後学習の内容

- ・Word、PowerPoint による事例研究原稿を作成する。
- ・事例研究発表の発表練習を行う。

評価の方法・基準

- ・Word 及びPowerPoint 事例研究原稿の出来栄え(40%)、レポート(50%)、授業態度(10%) により評価する。

教科書

- ・プリント配布

備考

パソコン教室の使用状況次第で講義の日程変更及び同日の連続講義があるので欠席には気を付ける。

授 業 科 目	総合演習 I			担 当 者	金光 久美 寺藤 美喜子		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	6 0

授業の目的・内容

さまざまな分野の実習や演習、見学を通し、幅広い視野をもった介護福祉士を目指す。

到達目標

- ・それぞれの演習について、目的を理解し受講することでさまざまな力を付ける。

授業計画

【前期】

1. 年金セミナー
- 2～3. 1年生交流会
4. 接遇マナー
- 5～7. 地域の高齢者との交流
- 8～9. ペーパークラフト
- 10～13. 課外授業
- 14～15. 外部研修

【後期】

- 16～17. 絵手紙
- 18～19. ホリスケア（美容について）
- 20～21. 外部授業
- 22～25. プロフェッショナルから学ぶ
26. 障害者スポーツ（基礎）
- 27～28. 車いすバスケット
- 29～30. 最後の授業

事前・事後学習の内容

- ・実施前にそれぞれ学ぶ意義や目的を確認し、理解を深めておく。

評価の方法・基準

- ・出席状況、授業態度(100%)

教科書

- ・必要に応じてプリント等配布

備考

授業科目	総合演習Ⅱ			担当者	藤原 久礼		実務経験
履修方法	演習	期 間	後期	学科・学年	介護2年	時 間 数	60

授業の目的・内容

介護福祉士国家試験に向けての対策講座である。介護福祉士国家試験に必要な社会福祉制度理解と知識の習得を行う。

また、外部業者による模擬試験、学力評価試験など模擬試験を受け、①試験の雰囲気慣れる。②国家試験の傾向を掴む、③学生自身の弱点の克服を目指す。

到達目標

- ・介護福祉士国家試験に出題される基本的な社会福祉制度の知識の習得ができる

授業計画

【後期】

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 成年後見制度 | 16. 障害者福祉制度 ④ |
| 2. 社会福祉法人 | 17. " ⑤ |
| 3. 育児介護休業制度 | 18. " ⑥ |
| 4. 成年後見制度 | 19. 外部模擬試験(午前)(外部会場) |
| 5. 社会の理解 ①(世帯数、高齢化率推移等) | 20. " (午後)(") |
| 6. " ②(福祉の財源) | 21. 外部模擬試験の復習① |
| 7. 社会福祉制度の変遷 | 22. " ② |
| 8. 介護保険制度 ① | 23. 学力評価試験(午前) |
| 9. " ② | 24. " (午後) |
| 10. 社会保障 ① | 25. 学力評価試験の復習① |
| 11. " ② | 26. " ② |
| 12. 外部模擬試験(午前) | 27. 学内模擬試験(午前) |
| 13. " (午後) | 28. " (午後) |
| 14. 障害者福祉制度 ① | 29. " (午前) |
| 15. " ② | 30. " (午後) |

事前・事後学習の内容

- ・①授業で学んだ項目の復習、②模擬試験を活用した自己学習、③テキストを利用した自己学習が常に求められる。そのため、受け身的に授業を受けるのではなく、積極的に自己学習し自己の知識の向上に努めることが大切である。

評価の方法・基準

- ・授業への取り組み(30%)、模擬試験(70%)などの試験評価など

教科書

- ・『2020年版 介護福祉士完全マスター問題集』(ナツメ社)
- ・『介護福祉士国家試験わかる受かる合格テキスト2020』(中央法規出版)

備考

外部業者による模擬試験や学内の模擬試験は休まず受験すること。

授 業 科 目	就 職 実 務			担 当 者	金光 久美 寺藤 美喜子		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

各福祉施設に求められる人材の性質を理解し、就職試験対策や必要書類の準備をしていく。社会に出てから必要なマナーを学ぶ。

到達目標

- ・適切な自己表現、自己主張をすることができる。
- ・希望する就職先から内定をもらうことができる。

授業計画

【通年】

1. オリエンテーション、求人票記入
2. 求人票のよみ方
3. 就職希望調査
4. 履歴書の書き方①
5. " ②
6. " ③
7. 採用試験対策 ①
8. " ②
9. " ③
10. 就職ガイダンス参加 ①
11. " ②
12. 作文練習
13. お礼状マナー
14. 採用面接練習 ①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・日々の言葉遣い、行動を意識する。
- ・福祉関連ニュースに興味を持ち、内容を理解する。
- ・いつでも試験を受けることのできる心構えを持つ。

評価の方法・基準

- ・出席状況(40%)、授業態度(50%)、提出物(10%)によって総合的に評価

教科書

- ・プリント配布

備考